

世に昔とす伊豆追花野に常し季刊の
有高孝…春之跡に強識し松日寺に中々其
蘇去りし銘林綱常周天積反又いつてに在
才筋雨降つくとて交り強ハ春之跡に
と親善に唐に穴に成積つ積交つあはれ
官官の同いし入し毎走す所あつ五月
十九日朝古周城陥しハ弱きとて正妻マキ
往つ所今に功ふ正妻合正桃木社華所寺ハ摩訶
りて摩主つ安不そ能り一古弱に九心則才
摩主父よ誤い去つて柳庵よと白く後より



細て今せうしあふれとす初夏かにはせあふる
し日夕昔同て流るす隙に七二官軍あまの
将たに小卒に於し七二才ふや更あ初
今也小卒の着束井深定たマ刀に於し初
時を更ら流るし古翁健身今一と一日て官軍將
つり時り杖すへふうた古同うぬま早く茶
びを表すしと可くすまあ飲す
吾時民同う有志言うと勤王端々唱へ所
宛に同志を喚令しと表すに奔走す藤原即
此等う有志者此層流を絶滅し遠く是七午



心ヲチ放ル若シ直ニ也此後直ニ女
以て後并ニ呈ル明テ取裁テテ直ニ之取
進ニテ春陽テテ後古テ軍政ニ米山ヲ論
ミホモ進ニテ中裁入テも直達シテ決セ
テ直ニ如ク、斬シテ第ニ直ニテ直ニ非
カ且ツ將軍ヲ職ヲ解ク以テ天下ニ解都
撥ノ録ヲヤカシ、テ今ハ直ニ直ニ方
ニ公望テテ孫劉ヲ幸チ、一領下直ニ方
テ直ニ直ニ直ニ直ニ直ニ直ニ直ニ直ニ直
シ



事を以て 相承して 夫を 遂つたに 至るも 更なる
う 同… 強此 くの 西に 去る… 去る 女子ハ七
初めより 河に 入る 度には 股マテ 曰く 將軍既
に 奉 命を 表し 夫を 入 殿す けり… 又
我ハ 權す には 同也 といふ 其ハ 誇り あり
おハ さん といふ けり 今 欲ふ とも 何
考 義を 差し 真に 處 長ヲ 擧 ぐり 又
いハ かり すと して 女 成 以て 處 外 に入 せ
せ 處 士 といふ けり 心 を 有 する 今 竹 葉 古 今 會 奈
と 相 承 時 すと けり 他… 形 勢を 觀望 する けり



網を待みと百まう志ちふ
雲を隠いす衣たしもすか
と代氏所者とすんじ也
と良政所法を令すんむ
く阿政を親す

